

# 令和2年度米沢市総合教育会議（第1回）議事録

日時：令和2年11月9日（月）

開会 午後 1時00分

閉会 午後 2時49分

場所：教育委員室

## 1 出席構成員

市長	中川 勝	教育長	土屋 宏	委員	神尾 正俊
委員	佐藤 晃代	委員	我妻 仁	委員	渡邊 美智子

## 2 出席職員

教育管理部長	渡部 洋己	教育指導部長	今崎 浩規
教育総務課長	小田 浩昭	社会教育課長	梅沢 和男
スポーツ課長	佐藤 幸助	文化課長	佐藤 恵一
学校教育課長	山口 まゆみ	教育務課長補佐	米原 裕美
教育総務課総務主査	佐藤 真英	教育総務課主査	伊藤 和香子

## 3 協議

- (1) 米沢市教育振興基本計画（案）について
- (2) その他

## 4 その他

**教育総務課長補佐** 令和2年度第1回米沢市総合教育会議を開会いたします。初めに、中川市長がご挨拶申し上げます。

———市長挨拶———

**教育総務課長補佐** ありがとうございます。協議につきましては、座長を市長にお願いいたします。

**市長** 協議に入らせていただきます。（1）米沢市教育振興基本計画（案）について事務局より説明をお願いします。

**教育総務課長** ———資料により説明———

**市長** 事務局の説明に対し、委員の皆様からご質問、ご意見等をいただきたいと思います。

**渡邊委員** この資料を拝見し、第3章までに今までのいろいろな思いや、これからのこと

が良くまとめられており大変素晴らしいと思いました。

**佐藤委員** 前回の総合教育会議でお話した新型コロナウイルスのことをはじめ、文言を全て入れていただいております、しっかりまとめられていると感じています。

**我妻委員** 第2章は、今までの10年間の主な取組をコンパクトにまとめていただいておりますが、その結果、どういう成果が出て、どういう課題が残ったのかということは書かれておらず、第4章に現状と課題が掲載されています。第3期教育文化計画の10年間の振り返って取り組んできたことを踏まえて良かった点、課題を第3章にまとめていただきたかったと思います。第2章の今までの10年間とこれからの5年間のつながりがここで切れているように感じています。章立てと構成の問題であり、内容的には問題ないと思います。

**市長** 今日までの10年間の成果或いは課題をどう捉えているか、そして今後の新たな計画にどう結び付けていくかということも重要な部分だと思います。そういったことについてはどのように今後の計画に活かしていくのでしょうか。

**教育管理部長** 第4章ではそれぞれの施策部分で詳しく成果と課題について述べさせていただきますが、計画全体として総括の面でこの2章に加えることができるかどうか検討させていただきたいと思います。

**神尾委員** 大変良くまとめられていると思いました。基本方針が4つ挙げられていますが上杉鷹山公や細井平洲先生の言葉や教えがその下地にあり、大変感心しながら見せていただきました。

**市長** 第1章から第3章まで、今までの議論を基にまとめられているという委員の皆様からのご感想でした。

**教育長** 委員の皆様、ありがとうございます。私も全体として大変良いと思っているところです。SDGsの考え方や新型コロナウイルスについてももしっかり取り上げておりますので、ぜひこの形で進めていければと思っています。

**市長** ありがとうございます。第1章から第3章については終了させていただきます。第4章の施策の展開について説明をお願いします。

**教育総務課長** ——資料により説明——

**市長** 施策の展開について説明がありました。具体的な取組についてご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

**渡邊委員** 施策1-1 主な取組の「教育の米沢品質による探究型学習のさらなる推進」のところで、つけたい能力を明確にして、学んだことを活かせるようとありますが、このつけたい能力とはどういったことを指しているのかお聞きしたいと思います。

**教育指導部長** 何か1つ、2つのものと絞ったものではなく、教育全体でつけたい力ということもありますし、授業等で言えば各教科でつけたい力など、その場面によって子ども達に必要な力、どういう力を培わなければならないのかということ

を1つ1つ明確にしていきながら力をつけ、ついた力を活かしていけるようにと捉えております。

**渡邊委員** 探究型学習の沿線上にあるその能力、開発というところと捉えてよろしいでしょうか。つけたい能力とはどういったものを指すのか戸惑ったところがありまして、私なりに考えたところでは、探究型学習のさらなる推進への沿線上にあるということであるならば、つけたい能力というところをもう少し馴染みやすい言葉にしてはどうかと思いました。例えば、「児童生徒が自らの課題を自分なりに明確にする」といったような表現のほうが捉えやすいのではないかと思います。21ページの「学校不適合児童生徒への支援」のところでは、適応障害のお子さんが増えているということですので、いろいろな専門分野から指導や協力を得ながら支援していくことがますます必要になってくると思いますので推進していただきたいと思います。それと同時に先生方への支援も必要なのではないかと思っています。学校教育に対して不安や行き詰まりを感じて、なかなか授業に出てくることができない先生がいらっしゃるという現状から申し上げたいと思います。生徒からすると、先生が一定期間コンスタントに学校に来ていらっしゃるということが、精神的に大変な不安材料になっているようです。先生に対しての心理面からのサポートをお願いしたいと思います。22ページの成果指標の現状値と指標値のところに表記されているR1、R7というのは令和1年、令和7年ということでよろしいでしょうか。その成果指標の全国体力・運動能力調査のところで中学校の現状値44.4%が令和7年には100%になるということですが、現実的に可能な数字なのでしょうか。そのためにどのような施策を考えているのか教えていただきたいと思います。それから23ページの「小中学校の再編の推進」のところで、ロードマップに基づき小中学校の再編を着実に推進しますとありますが、この着実にという言葉に意志を感じました。適正規模・適正配置は話題になってからいろいろあり先送りになった状況ですが、小中学校の再編を基に「学校施設の整備の推進」や、「安全で持続可能な給食の提供に向けた整備の推進」ということにも関わってきますので、着実に推進されることを切にお願いしたいと思います。施策1-3の「連携を活かした教育の充実」の主な取組に「防犯マニュアルの見直しと整備」とありますが、最近は自然災害も多く発生しておりますので注意していかなければならない点だと思います。また、子ども達においては、学校生活での不安として自分の体調面が保障されるのかということがあると思います。例えば、子どもに持病やアレルギーがあった場合に、学校生活の中で体調を守られながら教育を受けられるのかという不安があります。教員側からすると、食物アレルギーの子どもの体調が急変した場合にどう対応したらいいのだろうといった不安もあるのではないかと思いますので、防災マニュアルの見

直しと同様に、学校が変わった時、その学校ではどんな生徒がいて、どういった行動マニュアルが取られているか等、学校生活の管理指導の中で確実にアクションの確認を行って子どものケアに当たることができるという内容を入れていただくと、子どもだけでなく保護者と先生も自信を持って進んでいけると思いますのでお願いいたします。

**教育指導部長** つけたい力については、探究型学習は他と関わり合いながら主体的に課題と向き合って解決しようとする学習の方法でございますが、社会に出た時も必要な力だと思います。探究型学習という形を取りながら、これからの課題を解決していく力を身につけていくという部分と各教科での必ずつけたい力が両輪のようにありますので、そういったところを取り上げてやっていくことになろうかと思えます。表現については、広く皆さんに知っていただくため工夫する必要があると思いましたので検討させていただきたいと思えます。2つ目の学校不適應の児童生徒への支援と教職員への支援の必要性については、ご指摘いただきましたように体調不良により教壇に立てなくなっている教員もおりますし、そういった教員を出さないという支援も必要だと思っております。その対応として、ストレスチェックテストを毎年2回行うことによってストレスを自分でも把握してもらい、必要であれば専門家のカウンセリング等を受けていただくことを行っております。或いは長時間労働になっていないかということの対応も行っているところですが、この計画（案）は、子どもの視点からつくっておりますので教職員のことについては盛り込んでおりませんでしたので検討させていただきたいと思えます。3つ目の全国体力・運動能力調査の中学校の指標値についても検討させていただきたいと思えます。4つ目の「小中学校の再編の推進」については、子ども達の教育環境づくりのため進めているところです。まず、第一弾として適正規模・適正配置の基本計画にもありますように複式学級の廃止を優先して行いたいと考えております。現状として、学年で子どもが1人だけという学年を持つ学校もありますので、多くの人たちと関わりながら力をつけていくことができる学習環境を1日も早くつくっていききたいと考えた結果、着実に進めていくとさせていただいたものでございます。「防災マニュアルの見直しと整備」についてですが、施策1-3の連携を活かしたということは、地域や関係機関という外部との連携の中でどのように整備を図っていくかという視点で考えましたので、24ページの安全教育の充実を図るというところに対応した取組として防災マニュアルを抜き出して書かせていただいたものです。いろいろな視点で考えた時に、それに対応したマニュアルがそれぞれ出てくることから、そういったものをどの程度まで具体的に盛り込むかということについては検討が必要になります。お話のありましたアレルギー対応については、教員にエピペン使用時の訓練を行っております。体調面、ア

レルギー対応についてのご意見をこの中にどう反映させることができるか検討させていただきたいと思います。

**市長** つけたい能力、これは基本目標だと思います。つけたい能力とは、これからの時代を生き抜く力をどう育てていくかということに尽きるのではないかと思います。それが「がってしない子ども」ではないのかと思いました。

**佐藤委員** 20ページの1-1「教育の米沢品質」のところですが、以前NRTの結果などに基づいて、米沢市として基礎学力の底上げをしっかりとした上でというお話があったと思いますので、基礎学力は元より、つけたい能力という形で何か文言を入れられないかと思いました。それから「家庭と連携した生活習慣と学習習慣の確立」というところで、来年度から1人1台の端末の整備ということで準備いただいているところですが、SNSでの犯罪も多くなっていますので、端末の扱い方や情報モラル教育を子どもだけでなく、保護者にもしっかり行っていただきたいと思います。そういった内容も入れていただけると良いと思いました。21ページの「キャリア教育の推進」のところ、22ページにある成果指標の現状値が小学校は82.4%であるのに対し、中学校は71.8%と低くなっています。中学生はチャレンジウィーク事業やキャリアパスポートを活用した取組を行っているにもかかわらず低くなっているというのはどういう理由があるのでしょうか。低下しているのであれば、何かしら新たな対応を考える必要があるのではないかと思います。「体力の向上と学校体育の充実」のところですが、中学校時点での運動嫌いが大人になってから運動をするか、しないかの二極化につながる場所がありますので、体を動かすことは楽しいことだと思えるような体育の授業をお願いしたいと思います。22ページの「米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画」についてですが、市民の皆さんに計画をしっかりと提示した上で着実に再編を進めていただくことをお願いします。24ページの「幼保小中連携の推進」のところでは、小中高のみならず幼稚園、保育園とも、これまで以上に連携を図っていただきたいと思っています。特に小学校入学時には幼稚園や保育園と小学校が必要な情報を共有して子ども達が安心して学校生活を送れるようにお願いします。

**教育指導部長** 基礎学力については基礎がなくては積み上がりませんので大事にしていきたいと考えております。文言については検討させていただきたいと思います。SNS等に関わるトラブルは小中間わず発生しております。家庭で子どもにスマホ等を持たせていただく時にフィルタリングをしなければいけないことになっているのですが徹底されていない状況です。さらに、学校と子どもと保護者の共通理解を図って情報教育を行っていきたいと思います。文言については検討させていただきます。自己のキャリアについての現状値が中学校で下がることについては、中学校では現実が見えてくることによるものだと思います。小

学生、中学生それぞれの年代の中で情報を与えつつ、自分の将来について前向きに考えていくことができる子ども達を育てていきたいと考えているところです。運動嫌いのことについては、学習についても運動についてもそうですし、いろいろなところで中間がなくなって二極化している傾向があります。運動にずっと関われる、その運動の楽しさ、素晴らしさを感じることは生涯スポーツにもつながっていくと思いますし、米沢市で推進している健康長寿日本一にもつながる大事な基本の部分でもあると思います。主な取組を受けての具体的な取組という視点も大切にしていきたいと思っております。適正規模・適正配置については、先程申しあげた通り、子ども達の環境整備のために頑張っていきたいと考えているところです。「幼保小中連携の推進」については、幼稚園、保育園から高等教育機関まで非常に大事だと思っています。特別な支援を要する子どもや子ども一人ひとり得意不得意もありますので、そういったところをしっかりとつないで、その子どもに合った教育、支援をしていかななくてはいけないと思っています。米沢市には大学が3校ありますので、それら高等教育機関との連携を大事にしていきたいと思っております。具体的な取組を考えていきたいと思っています。

**我妻委員** 施策1-1の主な取組ですが、目標があって、そのために手段があって、しかも具体的な施策まで細かく書いているグループと、どうやってこれを実現するかというHow toが全くないものもあり、書き方のレベルにばらつきがあると思いました。例えば、「家庭と連携した生活習慣と学習習慣の確立」という点では「米沢っ子学びの手引き」の活用を図りとあります。使っていくのはわかりますが、具体的にどうやっていくのかというところがありません。「教育の米沢品質」の部分についても授業改善と学力の向上というのは大きい柱だと思いますが、どうやってそれを実現していくのかというところをもう少し深掘りしていただきたいと思いました。主な取組が5つありますが、KPIのどれとどれが結び付くのか、なぜこのKPIがあるのか、1つ1つの主な取組によってこのKPIがこうなるという結び付きが弱いように感じました。例えば、「全国体力・運動能力調査」の結果では、米沢市の小中学生は前屈が弱かったはずですが。ということは体が固く柔軟性がないということですから、小中学校では、どうやってこの弱点を5年間で克服していくのかという辺りを掘り下げていただきたいと思います。具体的にできるものについては、施策とその手法についても記載していただければ良いと思いました。探究型学習を推進していくことは最終的には自分で考え、行動できる人間をつかっていくということに結び付いていくわけですが、学習の個別最適化や共同学習によって主体的に学ぶ子ども達をつかっていくことが探究型学習のねらいだと思いますので、その辺を活かしていくためにもKPIに米沢の子ども達の全国学力調査の結果を分

析したものを入れることを検討いただきたいと思います。5年間でどうやって子ども達に基礎学力を植え付けていくかという大事な指標だと思います。1-2の③「学校給食の安全性確保及び食の教育」のところで、学校給食の安全性確保が一番大事なことだと思いますし、効果的かつ効率的な学校給食実施体制の構築の推進も良いと思います。食の教育（地産地消の推進等）の充実とあり地産地消のKPIも載っていて、地元の農産物の使用割合を増やしていくという目標も地産地消の推進という観点からは良いと思いますし、食の教育を充実させていく上で地産地消を取り入れながら地域の農業、産業、生産者の生活などを知っていただくということも大事なことです。ただ、それだけで食の教育が充実するかというとそうではないと思います。山形県は子どもの肥満度が高いというデータがあります。学校教育の中で学校給食は大事な意味があると思います。意味はありますが1日3食の7日間で5/21、たった5食しかありません。16/21は家庭の中でする食事ですので家庭でカロリー管理をしないことには肥満になるのは当然です。健康課や栄養大学と連携しながら子ども達の食全体をサポートしていく姿勢が必要だと思います。④の働きやすい環境のところは先生方の働き方改革を推進して授業改善に集中できる環境、或いは先生でなければできない仕事を集中的にやっていただいて、今まで余りにも先生に集中し過ぎていた授業以外の用務を専門化して、先生から切り離していく環境をつくっていただくというのが働きやすい環境という意味だと思いますので、そのために校務やICT環境の整備等とありますが、もう少し具体的に働き方改革をやっていくという内容を入れていただくと良いと思います。21ページのキャリアパスポートについては、どういうものなのかコメントを付けて、わかるようにしていただければと思います。「教員のICT活用力・指導力の向上」の中では情報ネットワーク研修会の充実とありますが、充実というからには今までも研修会があったのだと思いますが、これからのGIGAスクールの中でさらに充実させていこうということなのでしょうけれども、これももう少しわかりやすく書いていただければと思います。「外国語教育の推進」のところでは、授業研究会の充実を図るとありますが、これもどのように行なわれているものなのかわかりませんし、結果的にこの研究会が先生方の資質向上、授業力につながっていくということをもう少し詳しく記述していただきたいと思います。「体力の向上と学校体育の充実」については、これから幼小中連携を推進していくということですが、体育や美術、音楽などの専門教科は中学校の専門の先生が少し小学校の指導をするといった専門教科の連携を上手く活かしていく施策を行っていただきたいと思います。幼小中連携の中で個別最適化の教育を行っていく上では小学校高学年の子ども達を対象に教科担任制をぜひ推進していただきたいと思います。24ページの「市立米沢図書館・博物館との

連携」では、学芸員や司書の方々の専門性を活用して、小中学校への派遣や教育現場への参画なりを行っていく仕組みをつくっていただきたいと思いましたが、その辺を施策として入れていただければ良いと思いました。「幼保小中連携の推進」の中に「小中連携の日」とありますが、いつなのか、どういうものなのか、これだけではわかりませんので注釈があると良いと思いました。

**教育管理部長** 記載のレベルにばらつきがあるということについては、詳しく書ける部分となかなか書きづらい部分がありますので統一できないところがあるということでご理解いただきたいと思えます。これは、あくまでも5年間の全体計画であって、各年度の事業や細かい部分については、また別に示していくことになります。ご意見としてありました新たな取組などは、今後5年間の中で取り組むことが決定すれば、この計画の中にも入れていくようにしたいと思います。ご指摘いただいた文言等については、精査して修正させていただきたいと思えます。皆様からいただいたご意見については、全体的な流れとして今申し上げたような取り扱いをさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

**教育指導部長** 具体的な施策についてご定義いただいたと思いますので参考にさせていただきたいと思えます。K P I についてですが、全国学力学習調査等の結果は手元にあります、調査の性格上、数値として公表しておりませんのでK P I として載せることは難しいと考えております。我々としては、どのくらい達成しているかという目安として、手持ちの指標として捉えさせていただいております。

**神尾委員** 「幼保小中連携の推進」については、切れ目のない支援として大事な取組だと思えます。特に「小中連携の日」は授業参観や情報交換を行い、有意義なものだと思っています。中学校区ごとにそれぞれ特徴的な取組をされていると思えますので、これをぜひ他の学校に発信する機会があると良いと思えます。「小中連携」をテーマにした公開研究会や教育研究発表会で小中連携の部会を設けていただくことは可能ではないかと思えます。特に小中連携では中一ギャップをなくすための橋渡しをスムーズに切れ目のない支援でつなぐ取組をさらに継続されるよう期待します。23ページの施策1-3「連携を活かした教育の充実」の「施策の方向」のところでの未来を担う子ども達の育成を図るため、学校・地域・関係機関がパートナーとして連携・協働し、地域全体で郷土を愛する子ども達の育成と成長を支える取組を進めるとありますが、とても大事なことだと思います。この基本計画の基本理念に「教育の米沢品質」を共に創り上げ持続可能な社会に貢献できる人づくりとありますが、地域を担う多様な人間を育てるためには将来の米沢市に夢と希望を持ってもらうのが大事だと常々思っています。私が小学校3年生の時に「私たちの米沢市」という社会科の副読

本がありました。その中に30年後の米沢市というページがあり、そこには工業団地があり、13号線にはバイパスができており、さらには新幹線が開通しているというイラストが描かれていました。私は本当にこんなふうになるのだろうかと思ったと同時に、将来に希望を持って、こんなふうになったらすごいと期待しながら見ていたことを覚えています。それが30年後に現実のものになり、50年経ったら高速道路が開通しています。そういう夢や希望を持つことは大事だと思います。歴史学習を大事にしながら米沢市の未来を構想する学習活動をこれから取り扱っていただきたいと思います。小中学校で発達段階に合わせた未来を語る学習が展開できたら素晴らしいと思います。その際は市の関係各課の出前講座もお願いしたいと思います。地域を知ることが地域を愛することになり、地域を愛することがふるさとの未来を考える子どもができることになると思います。ふるさとの未来を考えることができれば、ふるさとに貢献できる大人に育つのではないかと思います。連携という意味でこのようなことも頭に入れながらこの施策が展開できれば素晴らしいと思います。

**教育指導部長** 連携につきましては共有して良いものを学校でも地区でも活かしていく視点は必要だと思いますので、様々な機会を捉えてそういった取組をしていきたいと思っています。これからの子ども達を育てる上で大事なところでもありますので推進していきたいと改めて感じさせていただきました。

**市長** この基本計画（案）の（案）が最終的にとれた場合に、今度は実際に実施していく事業への対応はどうしていくのですか。

**教育管理部長** 大きな事業については、市のまちづくり総合計画の実施計画の中に搭載していく形になりますし、個別事業については毎年度の事業予算の中に位置付けますので、毎年作成しております予算の概要などご説明させていただくことになります。

**市長** そういった具体的な実施計画というのは教育委員会ではどういう役割を持つことになりますか。事業をやっていく場合に、もっとこうあるべきだとかいうことは教育委員会の中で議論するわけでしょう。

**教育管理部長** 毎年、予算についてご説明させていただきますので、その中での取組で教育委員の皆様からいただいた意見を基に、また取組を行っていきます。

**市長** 実際に事業で何をやっていくかとなった場合には、しっかりと教育委員会の中で議論していただいてということになるのですか。

**教育管理部長** 一つ一つというのはなかなか難しいですが、主な事業については行います。全体としてもご意見をいただきながら取り組んでいきます。

**市長** そういったことの大事なところが教育委員会には、私はあると思っています。もっともっと細かいところを掘り下げていくといくらでもあるような気がしますから、そこはしっかりと教育委員会の中でやっていただきたいと思っています。

では、教育長からお願いします。

**教育長** 貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。学校の適正規模・適正配置は前回の会議で小中一貫校のところで止まってしまって、今のお話の中でも学校の適正規模・適正配置を早く進めないで米沢の課題である一貫教育ができない状況です。1つの中学校に複数の小学校が行きますし、いくつかの中学校に分かれる状況もありますので、そこを進めて早い段階で義務教育9年間の中で米沢の小中の教育をしっかりとできるようにしていかなければということが私の中には非常に大きくあります。思いを込めて具体的に進めていきたいと思っています。細かい点でいろいろご意見をいただきました。そこについては単年度、単年度、施策と予算がついてくるわけですので、そこについての評価と次年度の計画という形でお出しし意見をいただいて、改善をしながら5年間これから進めていけるようにしたいと思っています。

**市長** 教育長から小中一貫校の話がありましたが、米沢市の重要事業として中高一貫校を挙げていますので、その取組や方向性といったものをこの計画の中に出さなくていいのですか。

**教育管理部長** 中高一貫校については、基本的には県立でということになりますので、米沢市としては、その実現を目指して様々な働きかけをしていくということになります。今回の基本計画の中でその部分まではなかなか位置付けが難しいと思っております。もう少し具体的な姿になって、教育をどうしていくかということが見えてくれば、この後の教育振興基本計画の中に入ってくるものと考えているところです。

**市長** 中高一貫校については、中学校の統廃合があるわけなので、そこを見据えて再編を考えておかないといけないと思っています。ようやく東根市の東桜学館の開校が終わって、今度は鶴岡市に建設ということですから、置賜のことはまだ何も決めていない状態なので時間は相当かかると思います。ただ、その時には中学校の3校という位置付けが具体的に進んでいくと思います。どこの高校と中学校を合併させるか、その時にその整合性が取れるのか心配しています。この計画は5年間のものだから、その後でも良いということかも知れないけれど中高一貫校について、米沢市としてやる気があるんだということを何らかの形でこの計画の中に入れておかなければいけないと思います。確かに文言をどう入れるか難しいとは思いますが、市の重要事業として県に挙げておいて、教育委員会の計画にないということでもいいのかなと思います。

**教育管理部長** 考え方として、教育をとりまく環境や今後目指すべき方向の中に県の教育環境として、そういった項目が入れられないか考えさせていただきたいと思っております。

**市長** 必ずしもこうだということでもなく、何らかの格好で計画の中に出しておく

ことは必要だと思います。これからの方向性の中で委員の皆様からご意見がありましたらお願いします。

**我妻委員** SDGsも含め、これから大事な教育は防災教育と環境教育、情報教育及び外国語教育や道徳教育、そして地域課題解決教育、さらには自分の将来に夢や希望を持てるようなプランニングというようなテーマはほぼ決まっています。5年間で全ては無理ですので、そのメインとなるテーマを絞り込んで、モデル校をつくって実践してもらい、ベストプラクティスをつくっていけいけるよう推進していただきたいと思います。それを積み上げていけば米沢のモデルが生まれてくると思います。

**市長** 私が期待するのは、いろいろな課題について教育委員会でしっかり議論してほしいということです。いろいろな課題はあると思いますが、今お話のあった環境教育で言えば、米沢市もゼロカーボンシティ宣言をしました。今後CO<sub>2</sub>を出さないように気を付けながら生活していく環境づくりは教育の一環である要素があると思います。それも含めて教育委員会の使命として具体的に検討いただきたいと思います。他に委員の皆様からございますか。基本目標1については、これで終了させていただき、基本目標2から4について委員の皆様からご意見やご質問をお願いします。

**佐藤委員** 31ページのKPI指標の中のコミュニティセンター事業の自主事業及び開催件数がピックアップされていますが、様々な分野の自主事業がある中の件数とその1つの事業に対する回数に重きを置くのではなく、少し新しい自主事業を考えてみてはどうかと思います。毎年、同じような自主事業が開催され、同じような回数、参加者も同じようなメンバーになってきています。新たな事業や教室が1つのコミュニティセンターでできなければ、各地区のコミュニティセンター合同事業の中で参加者を募集するという工夫をしてみてもどうかと感じたところです。41ページの②米沢市スポーツ協会やスポーツ推進委員会等の関係団体と連携し、スポーツを通じた健康長寿に向けた取組とありますが、これは社会教育課ともつながってくる部分だと思います。各17地区コミュニティセンターにおいて高齢者向けの運動サークルへの支援や紹介、宣伝をもっと行っていただくと、さらに多くの方に参加いただけると思います。高齢者はスポーツというと参加しない人が殆どですので、そこに「骨密度や血管年齢測定ができますよ」というような魅力あることを付け足して進めてはどうかと思います。ウォーキング教室だけでは歩ける人しか来ませんが、健康教室だと多くの方が来てくれるということがあります。よろしく願いいたします。

**社会教育課長** 31ページの成果指標のところにコミュニティセンターの自主事業件数及び開催回数がありますが、このテーマが新しい地域の担い手を育成するための取組です。新しい連携の形、コミュニティセンター同士の相互連携の事業と

して、すでに東部コミュニティセンターでは6館連携のスタンプラリー事業を始めています。KPIの項目についても再度検討させていただきたいと思いません。

**スポーツ課長** 健康長寿に係る取組についてということで、各コミュニティセンターからの紹介やサークル活動の紹介へのでこ入れについてご意見を頂戴しましたので可能な中身ですので力を入れてやっていければと考えています。明治安田生命と協定を結び骨密度や血管年齢の測定効果といった事業或いはセミナー的なこともやっておりますので、連携協定の中で取り組んでいきたい思っているところです。

**市長** 各17地区のコミュニティセンターがいろいろな取組をやっているところと、健康長寿関係で独自の取組にも補助金を出しています。どういう取組ができるかはこれから考えていかなければいけないと思いますが、押し付けるような恰好が良いのか、地域の独自の対応でやるのが良いのかということもあると思うので、今後地区との連携を含めて上手く考えてほしいと思います。では、このようなことを検討委員会でよく議論いただきたいと思いません。他にいかがですか。パブリックコメントはやるのですか。

**教育総務課長** 計画（案）について議会にお示しした後、行うこととしております。

**市長** 教育長から何かありますか。

**教育長** 貴重なご意見ありがとうございました。この総合教育会議で諮るべきこと、教育委員会にご相談申し上げることを住み分けしながら、これから具体的に進めるよう取り組んでまいりたいと思いません。ありがとうございました。

**市長** では、これで協議を終了させていただきます。

**教育総務課長補佐** ありがとうございました。その他、皆様から何かございますか。長時間に渡りご協議いただきありがとうございました。以上を持ちまして、第1回米沢市総合教育会議を終わります。